

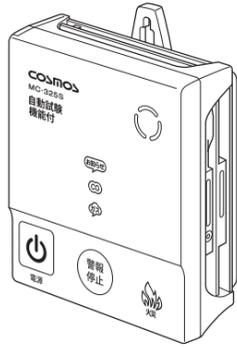
家庭用

住宅用火災(煙式)・ガス・CO警報器

型式名 MC-325S

施工説明書【施工される方へ】

お客さまにこの警報器を安全に正しくご使用いただくために、この施工説明書をよくお読みいただき、指定された取り付けを行ってください。



1 お願いとご注意

警報器を正しく設置していただくため、また、あなたやお客さまへの危害や財産への損害を未然に防止するために、この施工説明書には、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 作業を誤った場合に、取付作業者および使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 作業を誤った場合に、取付作業者および使用者が傷害を負う場合または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

2 施工される方へのお願い

- 取付終了後に施工説明書に従って「6-1 自動初期点検機能の確認」、および必要に応じて「6-2 作動点検」を行ってください。なお、作動不良の場合は交換してください。
- 必要に応じて、「3-1 警報器の説明」「3-2 お客さまへの周知事項」についてお客さまに説明を行い、ご理解を得てください。
- 警報器を梱包から出された状態で持ち運びまたは保管しないでください。

注意

警報器には、落下などの強い衝撃を与えないように、取り扱いには十分に注意してください。故障や誤作動の原因になります。

3 お客さまへの説明について

3-1 警報器の説明

- ① 警報動作および自動初期点検機能の結果の説明。作動点検をした場合は、作動点検の結果の説明。
- ② 取扱説明書を必ず読んでいただくこと、取扱説明書を保管していただくことをお願い。
- ③ 取扱説明書に基づく主要な機能の説明と確認。
 1. 火災警報の内容（赤スライド（火災警報）ランプ点灯、音声合成音の確認）と、警報時にとるべき処置の説明。
 2. ガス警報の内容（赤（ガス警報）ランプ点滅、音声合成音の確認）と、警報時にとるべき処置の説明。
 3. CO警報の内容（黄（CO警報）ランプ点滅、音声合成音の確認）と、警報時にとるべき処置の説明。
 4. ガス警報、CO警報の同時警報の内容（赤（ガス警報）ランプと黄（CO警報）ランプの点滅、音声合成音の確認）と、警報時にとるべき処置の説明。
 5. 部屋の外にいて、ガス警報、CO警報に気づいたときにとるべき処置の説明。
 6. 電池切れ警報、故障警報の内容と処置の説明。
 7. 誤報が発生する原因と処置の説明。
 8. スイッチ操作の説明。
 - 定期点検
 - 警報音停止
 - 有効期限切れ音声機能

3-2 お客さまへの周知事項

- ① 保証期間 5年。
- ② 警報器の有効期限のお知らせ。（本体に貼付の有効期限ラベルに表示）
- ③ 保証書を必ず読んで内容を理解した上で取り扱うこと。
- ④ 警報器の移設禁止。（移設依頼時の連絡先）
- ⑤ 警報器の分解禁止。
- ⑥ 引越時の処置。
- ⑦ 故障・異常時の連絡先。

4 取り付け前の確認

4-1 警報器の確認

取り付ける警報器が空気より軽い12A・13Aガス用であり、本体に異常のないことを確認してください。

4-2 梱包部品の確認

梱包部品の種類と個数を確認してください。

本体…1個	取扱説明書（保証書付）…1枚	施工説明書（本書）…1枚
木ねじ 長さ16mm…1本	取付フック…1個	ピン長さ20mm…3本

4-3 取付位置の確認

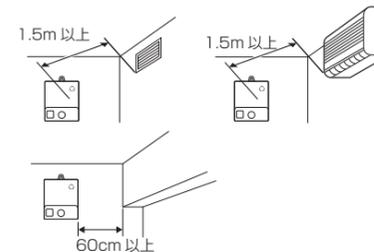
設置場所の選定については、お客さまとよく相談して決めてください。

注意

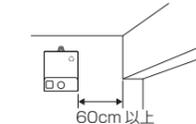
正しい取付位置に取り付けてください。取り付けられない場所に取り付けると、警報の遅れ、誤報、故障の原因となります。

正しい取付場所について

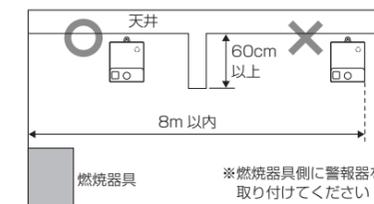
- ガス、COを検知しようとするガス機器を設置している場所と、同一の室内に取り付けてください。
- ガスやCOが滞留しやすい位置で、電源表示「**ON**」の確認しやすい位置、点検が容易にできる場所へ取り付けください。
- ガス、COを検知しようとするガス機器（一定位置に固定しないで使用されるガス機器の場合はガス栓）から、水平距離で8m以内、警報器の底面から天井面までの距離が20～30cm以内に取り付けてください。
- 換気口など、空気の吹出口から1.5m以上離してください。



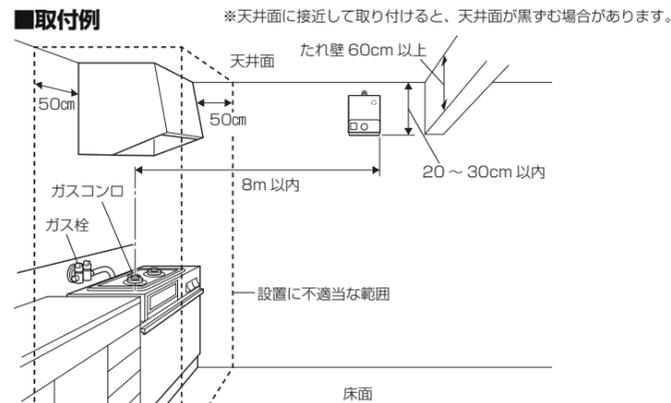
- たれ壁やはりから60cm以上離してください。



- 天井面が60cm以上の突出したたれ壁などによって区画される場合は、たれ壁より燃焼器具側に取り付けてください。



取付例

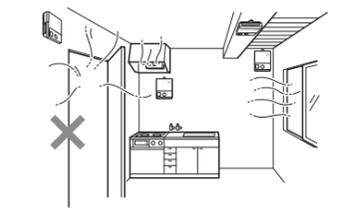


取り付けられない場所について

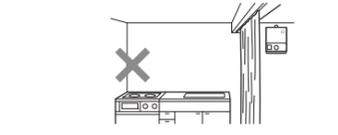
以下の場所には、絶対に警報器を取り付けしないでください。

- レンジフード内やレンジフード本体への取り付け。アルコール等で警報することがあります。
- 換気扇、給気口、ドア付近など風通しの良い場所。
- すき間風の入る場所。
- 30cm以上（警報器含）のたれ壁などの下。警報が遅れたり、検知できないことがあります。

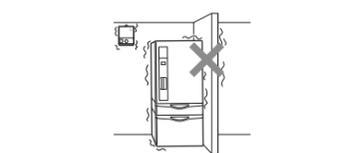
- たれ壁60cm以上で区切られている場所。
- エアコンなどの吹出口に近い場所。警報が遅れたり、検知できないことがあります。



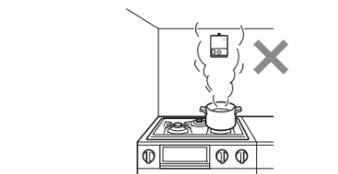
- カーテンウォールなどで仕切られた場所。警報が遅れます。



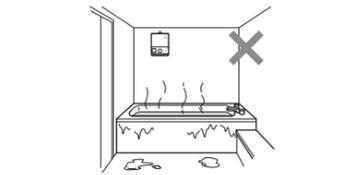
- 振動、衝撃の激しい場所。センサの故障の原因になります。



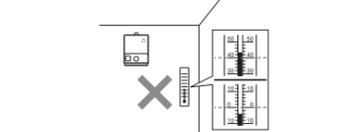
- 燃焼器具などの排気、湯気、油煙および調理用アルコールの蒸気が直接かかる場所。センサ寿命が短くなったり、誤報の原因になります。



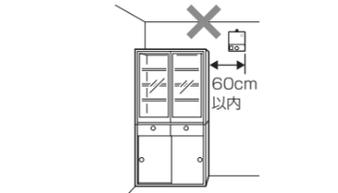
- 浴室内、水のかかる場所、水滴のつく場所。電氣的故障の原因になります。



- 温度が0～+40°Cの範囲をこえる場所。警報器としての機能を果たしません。また、誤作動の原因になります。



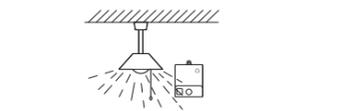
- 食器棚などから60cm以内の場所。



- 火災以外の煙や蒸気がかかる場所。



- 照明器具の近く。（可能な限り離す）



- 屋外。屋外では使用できません。

- 業務用・工業用。家庭用です。業務用・工業用ではありません。

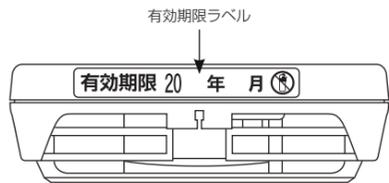
- ガス検知口に他の機器などを密着させないでください。警報が遅れることがあります。



5 取り付けかた

5-1 有効期限の記入

この警報器の有効期限は、取り付け後5年間です。必ず、警報器本体に貼ってある「有効期限ラベル」に、有効期限の年月を記入してください。

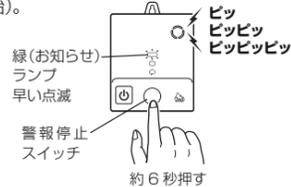


5-2 警報音の切り替え

警報音は、日本語、英語、中国語に切り替えることができます。初期設定は日本語の音声になっています。必要に応じて切り替えができますので、お客さまに確認してください。 ※ 英語、中国語に切り替えを行っても、火災警報音、ガス警報音、CO警報音以外は日本語音声となります。

〈警報音の切り替えかた〉

① 警報停止スイッチを約6秒間押し、「ピッ」「ピッピッ」「ピッピッピッ」と開始音が鳴ります。(緑(お知らせ)ランプが早い点滅開始)。



② 警報停止スイッチから手を離すと変更後の音声設定でガス警報音が鳴ります。

変更後の音声設定	音声内容
英語	ウーウー ビッピッピッピッ ガスがもれていませんか ウーウー ビッピッピッピッ Danger Gas Danger Gas
中国語	ウーウー ビッピッピッピッ ガスがもれていませんか ウーウー ビッピッピッピッ 煤气泄漏 危险 煤气泄漏 危险
日本語	ウーウー、ビッピッピッピッ、ガスが漏れていませんか。

③「ピー」と終了音が鳴り、警報音の切り替えが完了します。
④ 上記操作をするたびに、日本語⇒英語⇒中国語⇒日本語の順に警報音が切り替わります。

※ 設定を切り替えた後は、電池コネクタを抜いても、切り替え後の設定を保持しています。

※ 英語や中国語に音声を切り替えた場合は、日本語と英語(または中国語)が交互に鳴ります。

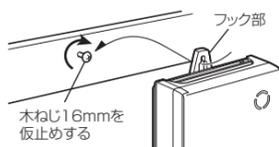
5-3 警報器本体の取り付け

△注意

- 取付位置の材質・強度を確認し、土壁や強度の弱い合板には取り付けしないでください。
- 警報器の取付時に、警報器を落とさないように注意してください。センサの断線など、正常に作動しない恐れがあります。
- 本体内にある煙感知部に触れないように作業してください。センサの破壊など、正常に作動しない恐れがあります。

■木ねじで取り付ける場合

- ① 木ねじ(16mm)を途中までねじ込み仮止めます。
※ コンクリート壁・石膏ボード壁の場合は、市販のカーンプラグを打ち込んで木ねじを使用してください。
- ② 仮止めた木ねじに、本体のフック部を引っかける。



③ 木ねじを締め付け、本体を固定する。

■取付フックで取り付ける場合(石膏ボード壁専用)

△注意

- ピンを指に刺さないように、取り扱いには十分注意してください。
- 取付フックにピンを差し込むときは、穴が硬いので十分に注意してください。
- 取付強度を保持するため、ピンは根元まで確実に打ち込んでください。
- 万一、ピンがゆるんだ場合は、取付位置をずらしてピンを付け直してください。

- ① 取付フックの取り付け位置を決めて、位置決めピンを垂直に打ち込む。
- ② 警報器のフック部を、取付フックに引っかけ、警報器本体が垂直になるように調整する。
- ③ 取付フックに固定ピン(左右2箇所)を斜めに打ち込んで固定する。



■既存の取付板が設置されている場合

- ① 上側の木ねじを5mm程度ゆるめる。完全に外さないでください。
- ② 下側の木ねじを取り外す。
- ③ 取付板を取り外す。



- ④ 警報器のフック部を上側の木ねじに引っかけて、木ねじを締め付け、警報器を固定する。

〈確認〉

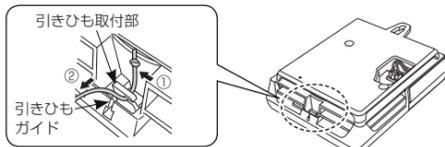
既存の取付板の位置に取り付ける場合、新しい警報器が正しい取付位置に取り付けられているかを確認してください。

5-4 引きひもの取り付けと調整

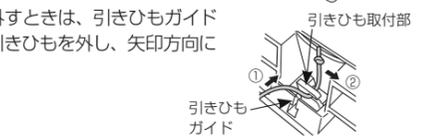
引きひも(別売品:HH-01)をご使用になる場合は、設置場所などお客さまのご要望をお聞きして、長さの確認をしてから取り付けてください。

■取り付けかた・取り外しかた・調整

● 図のように引きひも取付部に引きひもを通して、矢印の方向に引きひもガイドに収めて引く。

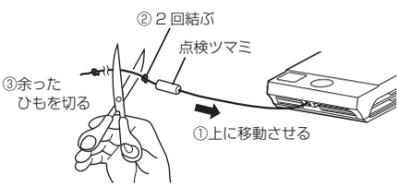


● 取り外すときは、引きひもガイドから引きひもを外し、矢印方向に引く。



● 引きひもの調整

- ① 点検ツマミを上に移動させる。
- ② 適当な長さとなる部分で2回結ぶ。
- ③ 点検ツマミの先の余ったひもを切る。



6 取り付け後の確認・点検

この警報器は、通電開始後の約30秒間でセンサを含めた内部回路が正常であることを確認する自動初期点検機能を有しています。製造から取付までが1年以内の警報器(警報器の製造番号シールに記載の製造年月から取付年月までが1年後の同月まで)で以下の条件を満たす場合は、「6-2 作動点検」は不要です。「6-1 自動初期点検機能の確認」のみを行ってください。ただし、お客さまから要望があった場合は、「6-2 作動点検」を行ってください。

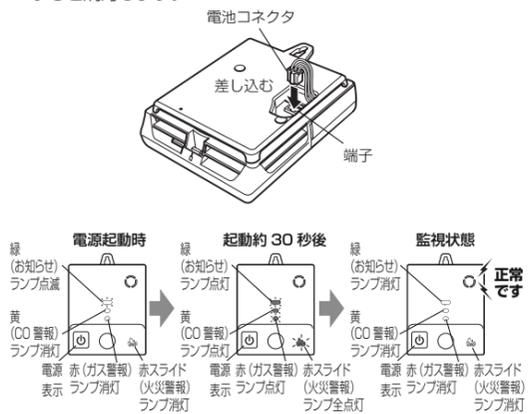
- 新規取付時(未入居の新築住宅を含む)
- 更新時

以下の場合は、「6-2 作動点検」が必要です。「6-1 自動初期点検機能の確認」の後に「6-2 作動点検」を行ってください。

- 製造から取付までが1年を超えた警報器

6-1 自動初期点検機能の確認

警報器表面の電池コネクタを端子に差し込んでください。電源表示「**⬆**」が点灯し、緑(お知らせ)ランプが点滅し、約30秒後にランプが全点灯した後に全消灯し、正常であれば「正常です」と鳴って、警報器は監視状態に入ります。万一、異常があれば、「故障です 販売店に連絡してください」と鳴りますので、警報器の交換をお願いします。 ※ 赤(ガス警報)ランプが点滅することがありますが、しばらくすると消灯します。



・ 緑(お知らせ)ランプが点滅中は作動点検を実施しないでください。

6-2 作動点検

おねがい

この警報器は作動点検をスムーズに行うため、監視状態に移行後、約3分30秒間(電池コネクタを差し込んでから約4分間)に限り、採取ガスに対して反応しやすい状態が保持されます。必ずその間に作動点検を行ってください。ただし、通電開始後の緑(お知らせ)ランプが点滅をしている間(約30秒間)は、ガスをかけてもセンサが反応せず、警報を発しないため、作動点検を行わないでください。上記時間を過ぎると、採取ガスに対して反応しやすい状態は解除されます。その場合は電池コネクタを一度抜き、再度差し込み直してから行ってください。

また、上記時間内であっても一度作動点検を行うと採取ガスに対して反応しやすい状態は解除されますので、ご注意ください。

〈準備するもの〉

- 点検ガス採取器(別売品:TT-12)
 - ガスライター
- 上記2点または、
● 火災・CO・ガスもれ警報点検治具(別売品:TT-11)



△注意

- アルコールを主成分とした点検ガスおよびライター式の点検ガス(生ガス)は、使用しないでください。センサ異常またはセンサ故障の原因になったり、警報状態からの復帰に大変時間がかかることがあります。

〈点検ガス採取器を用いて点検する場合〉

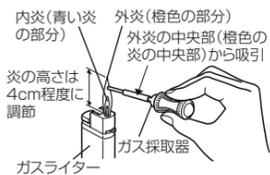
① ガスライターを点火し、炎の高さを約4cmに調整する。

おねがい

- ② 点検ガス採取器の容器部分を十分圧縮して、採取管の先端を炎の外炎の中央部へ持っていく。
- ③ 容器の圧縮をゆっくり(約3秒程度)ゆるめ、炎の中からガス成分を吸引する。

おねがい

長時間加熱すると、ガス採取器が破損することがありますので注意してください。



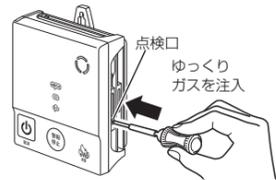
④ 点検ガスの採取が終わったら、速やかに点検ガス採取器を炎から離し、ガスライターの炎を消す。

△注意

- 炎から出した直後の採取管は、先端が非常に熱くなっています。絶対に触らないでください。やけどをする恐れがあります。



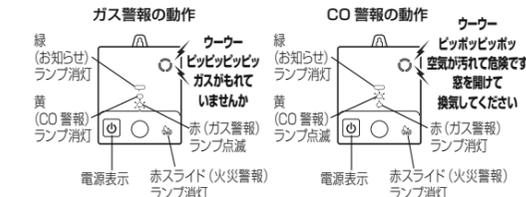
- ⑤ 採取管の先端部分の温度が下がるまで(約30秒程度)待つ。
- ⑥ 採取管の先端部分を警報器の点検口にしっかり押し当てて、容器を圧縮し、採取したガスをゆっくり(約3秒程度)注入する。



△警告

採取したガスは、警報器の点検以外には使用しないでください。直接吸引するとCO中毒を起こす恐れがあります。

⑦ 赤(ガス警報)ランプが点滅し、ガス警報音(「ウーウービッピッピッ ガスがもれていませんか」)が鳴り、黄(CO警報)ランプが点滅し、CO警報音(「ウーウービッポッピッポッ空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」)が鳴ります。吹き掛けのタイミングにより、ガス警報とCO警報の順番が逆になったり、交互に鳴る場合があります。



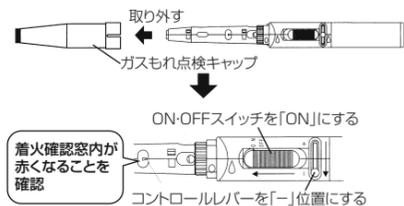
⑧ ガスがなくなると、赤(ガス警報)ランプと黄(CO警報)ランプが消灯します。

〈火災・CO・ガスもれ警報点検治具を用いて点検する場合〉

〈ご注意〉

この点検治具による火災警報確認は行えません。

- ① ガスもれ点検キャップを本体から取り外す。
- ② コントロールレバーを「-」の位置に移動する。

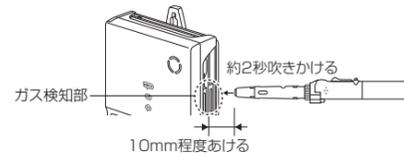


③ ON・OFFスイッチを前方にゆっくり押し上げ、「ON」の位置に移動する。

※ 着火確認窓より着火の確認をしてください。着火すると着火確認窓が赤くなります。(もし、着火しなかった場合は、もう一度上記の操作を行ってください。)

※ カチッと音がするまでしっかりと押し上げてください。

- ④ 本体の先端を警報器のガス検知部付近に近づけ、約2秒程度ガスを吹きかける。
※ 約10秒以上ガスを吹きかけないでください。本体および警報器を破壊・損傷する恐れがあります。



△警告

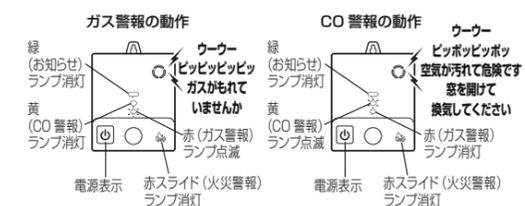
点検治具より吹き出されるガスは、警報器の点検以外には使用しないでください。直接吸引するとCO中毒を起こす恐れがあります。

△注意

着火使用時には先端の樹脂部分は熱くなっています。絶対に触らないでください。やけどをする恐れがあります。

⑤ ON・OFFスイッチを離す。
※ ガスが止まっていることを確認してください。

⑥ 赤(ガス警報)ランプが点滅し、ガス警報音(「ウーウービッピッピッ ガスがもれていませんか」)が鳴り、黄(CO警報)ランプが点滅し、CO警報音(「ウーウービッポッピッポッ空気が汚れて危険です 窓を開けて換気してください」)が鳴ります。吹き掛けのタイミングにより、ガス警報とCO警報の順番が逆になったり、交互に鳴る場合があります。



⑦ ガスがなくなると、赤(ガス警報)ランプと黄(CO警報)ランプが消灯します。